

令和7年度

「運営に関する計画」

最終評価



大阪市立友渕中学校

令和8年3月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校の多くの生徒の家庭環境は安定した状況であり、基本的な生活習慣は身につけている。そのため学力面では、全国学力・学習状況調査結果の検証からも比較的高いレベルにある。ただ、学校になじめない生徒もおり、本校及び本校校区の大きな課題である。

引き続き仲間づくりに重点を置き、豊かな感性を育む取り組みを積極的に教育活動に取り入れ、集団づくりをする中で、挑戦心、利他心、自律心の3つの心を育み、一人ひとりの生徒が違いを認め合い、互いにリスペクトし、折り合いをつけられる安心して穏やかな気持ちで登校できる学校づくりをしていきたい。

本校の校区域の家庭は、子どもの教育に熱心であり、登下校の見守りや日常の教育活動への関心が高い。一小一中であるので、地域から学校が応援されるような協力体制を構築していくことが望まれる。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

仲間づくりに重点を置いた教育活動を通じて、違いを認め合い、互いにリスペクトできる集団づくりに努め、一人ひとりが大切にされる学校づくりを行う。そのために、学校の教職員と生徒・保護者が、日常の教育活動を通じて信頼関係を築き、どんなことでも相談できる関係を構築するよう努める。

また、一小一中の利点を活かして、学校・地域・保護者が小中連携の観点で組織的な協力体制を構築しながら、子どもの安全を見守り、地域行事等を活用して子どもの成長を促す取り組みを継続していく。

上記の内容に重点を置いた取り組みを重ねて、一人ひとりが大切にされる、支えあう集団づくりの成果を出し、令和7年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しい」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を83%以上にする。（昨年度82.1%）

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

多くの生徒に関して、受験学力だけの学力に陥らずに社会で通用する「思考力・判断力・表現力」を備えた「生きていく力としての学力」をつけることが大事である。人権教育やキャリア教育を通じて、豊かな感性を持てるように努め、人の気持ちを理解し、社会に貢献できる生徒を育成していく。

上記の教育活動を、毎年度、学年や学校の行事に取り入れながら、学力についての認識を情操面も含めた大きな枠で捉え、令和7年度末までに、全国学力・学習状況調査の生徒質問紙における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を98.2%以上にする（昨年度は98%）

【学びを支える教育環境の充実】

一人一台学習端末の貸与や教職員の情報機器の整備により、学習活動をはじめ様々な活動でICT機器の活用が期待されている。感染症による学級休業においても学習を継続させるために活用できるよう取組をすすめる。

令和7年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で学習端末を活用している」の項目で「ほぼ毎日」と答える生徒の割合を80%にする。

教員の勤務時間の上限に関する基準を満たす教職員の割合を65%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

学校園の年度目標

- 日常の教育活動や学校行事において、集団づくりに重点を置き、班活動を通じて相手の気持ちを考える生徒を育てるとともに、ちがいを認め合い、お互いに支えあえる集団づくりに努め、一人ひとりが安心して学校生活を送れる学校づくりをめざす。目標値として、年度末の校内調査において、「学校に行くのは楽しい」と肯定的意見 83%以上を維持する。(昨年度 82.1%)
- 不登校傾向の生徒の状況を十分に把握し、教職員で共通理解を図る。そのうえで、校内におけるいじめ・不登校対策委員会においてケース会議を行う。当該生徒・保護者と密接につながり、また、関係諸機関とも連携し、当該生徒が安定した気持ちで生活できるように努める。目標値として、こども相談センターや区役所子育て支援室との協議内容を充実したものとするとともに、新たに不登校になる生徒の割合を1%未満とする。(昨年度 1%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学校の年度目標

- 生徒が積極的に参加する授業を創造するとともに、体験的な活動を積極的に実施し、自ら学ぶ生徒を育成するよう努める。年度末の校内調査で「前向きに授業に取り組んでいる」生徒の割合 91%以上を維持する。(昨年度 90.8%)
- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 47%以上にする。(昨年度 46.9%)
- 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合 68%以上にする。(昨年度 67.5%)

【学びを支える教育環境の充実】

学校の年度目標

- 授業日において、生徒の8割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を67%以上にする。(昨年度 66%)

【その他】

学校の年度目標

- 授業や行事、生徒会活動や部活動において生徒同士の話し合いで考えを深め、発表内容を決める経験を増やしてきた。日常の教育活動において、一層「主体的・対話的で深い学び」を増やしていくとともに、探究的に物事を考えていく活動を一層取り入れていく。
- 豊かな感性を育てるために、朝読書を通じて読書活動をより一層活発にし、年度末の校内調査で「読書は好きだ」と答える生徒の割合を65%以上にする。(昨年度 64.8%)

3 本年度の自己評価結果の総括

| |
|---|
| <p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>○年度末の校内調査において、「学校に行くのは楽しい」と肯定的意見が 84%で目標を達成できた。(目標 83%)</p> <p>○いじめや不登校について、こども相談センターや区役所子育て支援室など関係諸機関とも連携し協議した。新たに不登校の基準となる日数に達する生徒の割合は 0.79%で目標を達成できた。(目標 1%未満)</p> <p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○年度末の校内調査において、「前向きに授業に取り組んでいる」と肯定的意見が 91.4%で目標を達成できた。(目標 91%)</p> <p>●年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合は 44.3%となり、目標を達成できなかった。(目標 47%)</p> <p>●年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を 64.5%で目標を達成できなかった。(目標 68%)</p> <p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>●授業日において、生徒の 8 割以上が学習用端末を活用した日を達成することができなかった。</p> <p>○第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 2 を満たす教職員の割合は 84.31%で目標を達成できた。(目標 67%)</p> <p>【その他】</p> <p>●年度末の校内調査で「読書は好きだ」と答える生徒の割合は 62.8%で目標を達成できなかった。(目標 65%)</p> |
|---|

| | |
|---|--|
| <p>評価基準 A：目標を上回って達成した C：取り組んだが目標を達成できなかった</p> | <p>B：目標どおりに達成した D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった</p> |
|---|--|

| 年度目標 | 達成状況 |
|--|-----------------|
| <p>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○日常の教育活動や学校行事において、集団づくりに重点を置き、班活動を通じて相手の気持ちを考える生徒を育てるとともに、ちがいを認め合い、お互いに支えあえる集団づくりに努め、一人ひとりが安心して学校生活を送れる学校づくりをめざす。目標値として、年度末の校内調査において、「学校に行くのは楽しい」と肯定的意見 83%以上とする。(昨年度 82.1%)</p> <p>○不登校傾向の生徒の状況を十分に把握し、教職員で共通理解を図る。そのうえで、校内におけるいじめ・不登校対策委員会においてケース会議を行う。当該生徒・保護者と密接につながり、また、関係諸機関とも連携し、当該生徒が安定した気持ちで生活できるように努める。目標値として、こども相談センターや区役所子育て支援室との協議内容を充実したものとするとともに、新たに不登校になる生徒の割合を 1%未満とする。(昨年度 1%)</p> | <p>B</p> |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|--|------|
| <p>取組内容①【基本的な方向番号①、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>不登校生徒の対応を、学校全体で取り組む。定期的な不登校対策委員会で情報共有をし、SSW等を交えたケース会議を実施して方針を協議、対応する。</p> <p style="text-align: right;">(いじめ・不登校への対応)</p> | B |
| <p>指標 不登校生の状況を毎月共有し、定期的なケース会議を実施し関係諸機関との連携も含めて、その成果を指標とする。</p> | |
| <p style="text-align: center;">年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> | |
| <p>・SSWやSCと連携して情報共有などができた。2月末時点での「ホッとスペース」利用者が1年2人、2年5人、3年8人で、延べ人数は377人でCOCOLOプランに基づき、子どもの居場所づくりに努めた。しかし、「ホッとスペース」の継続や利用ルール、人員配置など運営の仕方にも課題が残る。</p> | |
| <p style="text-align: center;">次年度への改善点</p> | |
| <p>・上記課題について、学校での対応に関しての議論を継続して深めていく。</p> | |
| <p>取組内容②【基本的な方向番号②、豊かな心の育成】</p> <p>班活動の実践と集団で取り組むことの達成感を生徒の意識に位置づけ、仲間づくりを本校の生活指導の柱にしている。できるだけ校外で班活動を意識した活動を実施する。また、可能であれば3学年で縦割りの活動を取り入れ、上級生のリーダーとしての意識向上を図る。</p> <p style="text-align: right;">(道徳教育・人権を尊重する教育の推進)</p> | B |
| <p>指標 校外学習などの学年行事で積極的に班活動を取り入れ、その成果を生徒アンケートや保護者アンケートで検証する。</p> | |
| <p style="text-align: center;">年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> | |
| <p>(1年)</p> <p>・Team Building や体育大会、文化祭、校外学習などの行事を通して班活動を取り入れてきた。学校生活アンケートによると1年生は「友人関係は良好だと思う」が94%、「利他心を意識して行事や授業に取り組めた」が89%であったことにより、目標は達成されたと考えている。</p> <p>(2年)</p> <p>・体育大会や文化祭、校外学習などの行事を通して班活動を取り入れてきた。学校生活アンケートによると、「友人関係は良好」が94%、「利他心を意識して行事や授業に取り組めた」が88.4%であったことで、一定の成果はあったと考えている。</p> <p>(3年)</p> <p>・1年次から取り組んできた班活動では、リーダー育成の集大成となる各行事(修学旅行・文化祭・体育大会)で、リーダーが中心の活動を多く取り入れた。また、委員会活動や体育大会では、上級生がリーダーとなる縦割りの活動を取り入れた。その結果、学校生活アンケートで「友人関係は良好」が94%、「利他心を意識して授業、行事、部活動に取り組めた」が88%と一定の成果があったと考えられる。</p> | |

| | |
|--|---|
| <p style="text-align: center;">次年度への改善点</p> | |
| <p>(1年) ・「学校へ行くのは楽しい」の項目で肯定的な回答が83%と低いので、活動を通して友人関係を深められる工夫をしていきたい。</p> <p>(2年) ・「学校へ行くのは楽しい」が83%と低いので、より一層仲間意識を高めあい、興味・関心を持たせるように工夫をしていきたい。</p> | |
| <p>取組内容③【基本的な方向番号②、豊かな心の育成】 様々な体験活動や講演会を実施し、生徒の多方面への興味や関心を高めることで社会性を育成する。</p> <p style="text-align: right;">(道徳教育の推進・キャリア教育の充実)</p> | |
| <p>指標 体験学習をすることや講演会を聴くことで学習に前向きになったと回答する生徒を70%以上にする。</p> | |
| <p style="text-align: center;">年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> | |
| <p>(1年) ・校外学習でのキャリア体験や外部講師の講話を積極的に行った結果、「自分にはいいところがある」ので肯定的な回答をした生徒が83%、「挑戦心、自律心を意識して活動に取り組めた」が89%であり、活動の成果があったと考えられる。</p> <p>(2年) ・校外学習での体験学習や外部講師の講話などを行った結果、「自律心を意識して活動に取り組めた」という生徒が88.4%であったことから、一定の成果は得られたと考える。</p> <p>(3年) ・修学旅行での体験学習、外部講師を招いての人権学習やキャリア教育を実施した。その結果、「自律心を意識して授業、行事、部活動に取り組めた」という生徒が88%、「挑戦心を意識して授業、行事、部活動に取り組めた」という生徒が89%あり一定の成果は得られたと考えられる。</p> | B |
| <p style="text-align: center;">次年度への改善点</p> | |
| <p>(1年) ・「将来の夢や目標を持っている」の項目が69%と低かった。自分を知り向き合う活動を取り入れ、自尊心を高めるよう工夫していきたい。</p> <p>(2年) ・将来の夢や目標を持っている」が67.9%、「自分にはよいところがあると思う」が82.5%と低い結果であった。良いところを見つけ、伸ばしていく中で、将来の夢や目標を見つけることができるよう工夫をして取り組みをしていきたい。</p> | |

| | |
|---|----------|
| <p>取組内容④【基本的な方向番号②、豊かな心の育成】</p> <p>人権尊重の精神と態度を養い、互いに思いやる集団を育成するために、次のような取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育基本方針および国際理解教育基本方針に基づいた教育活動をすすめる。 ・3年間を見通した年間指導計画をもとに生徒の実態に即した人権・性教育をすすめる。 ・教職員が鋭敏な人権感覚を培う機会をつくり、生徒が人権課題に対する正しい知識と認識を深めることができるよう努める。 ・道徳委員会・進路学習委員会と連携し、道徳科と人権学習の学習内容の整理・精選を行う。 <p style="text-align: right;">(道徳教育・人権を尊重する教育・多文化共生教育の推進)</p> | |
| <p>指標 人権学習を通して自尊感情が高まることを、学校生活アンケートの「自分にはよいところがあると思う」の項目で検証する。</p> | |
| <p style="text-align: center;">年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> | B |
| <ul style="list-style-type: none"> ・今年度も基本方針に基づいた年間指導計画に沿って、人権・性教育をすすめることができた。 ・今年度は、特別支援コーディネーターを講師として「通級教室」についての理解を深める教職員研修を行い、通級教室の意義や活動内容を再認識することができた。 ・学校生活アンケートの「自分にはよいところがあると思う」の項目では、肯定的な回答が82.8%で、まだ十分ではないが一定の成果はあったと考えられる。 | |
| <p style="text-align: center;">次年度への改善点</p> | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・定例の委員会の中で各学年の取り組みの確認を行っているが、指導案の検討まではできていないのが現状である。次年度は委員会の中で少しずつ指導案の検討を行えるような体制をつくっていききたい。校内での教職員研修以外に、外部の研修にも参加できるよう、委員会から発信していきたい。 | |
| <p>取組内容⑤【基本的な方向番号②、豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育のための校内支援体制の整備を図り、組織的に特別支援教育を実践していく。 ・特別支援教育の円滑な推進のため、関係諸機関との連携、調整および保護者との連携を図っていく。 ・生徒の障がいの実態を十分に踏まえ、「個別の教育支援計画」、「個別の指導計画」の作成を進めていく。 ・特別な支援を必要とする生徒に対する指導や支援方法について理解を深め、教科との連携を密にとり、切れ目ない支援体制の推進を図る。 <p style="text-align: right;">(インクルーシブ教育の推進)</p> | |
| <p>指標 特別支援学級担任は、専門性を高めるための研修を受講し、専門性の向上を図る。3つめの項目に関しては100%達成とする。</p> | |

| | |
|--|----------|
| <p style="text-align: center;">年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の校内支援体制を整備し、在籍学級担任や支援員、関係職員との連携を図りながら、組織的な支援が行われている。 ・「個別の教育支援計画」、「個別の指導計画」を100%作成し、関係者間で共有できている。 ・区役所の子育て支援室や、子ども相談センター、放課後デイサービスなど外部機関とも連携を進め、支援の方向性を共通理解する体制が整いつつある | B |
| <p style="text-align: center;">次年度への改善点</p> | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画・指導計画は全対象生徒について作成・活用できたため、次年度はその評価と見直しを計画的に行い、支援の質の向上を図る。あわせて、教科担当も含めた校内研修や生徒理解に関する情報共有を充実させ、合理的配慮の共通理解と切れ目ない支援体制の定着を目指す。 | |
| <p>取組内容⑥【基本的な方向番号②、豊かな心の育成】</p> <p>読み物教材等を活用し、今年度最低22項目は履修できるように努める。生徒が自らの生き方を考え、意見を出し合える道徳の授業を実践する。</p> <p style="text-align: right;">(道徳教育の推進)</p> | |
| <p>指標 生徒アンケート「道徳の授業を通して、人間としての生き方について考えた」の項目において、肯定的な回答を80%以上にするようにする。</p> | |
| <p style="text-align: center;">年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> | A |
| <ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケート「道徳授業を通して、人間としての生き方について考えた」の項目においての肯定的な回答は91.4%であった。3学年ともにグループワークやディベートなどを取り入れた活発な授業を行うことができた。 | |
| <p style="text-align: center;">次年度への改善点</p> | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・今年度実施した教員の授業アンケートを生かして、来年度はより一層、活発な授業に取り組みたい。 ・教材等の共有も進め、相互参観なども取り入れ、授業改善に努める。 | |
| <p>取組内容⑦【基本的な方向番号②、豊かな心の育成】</p> <p>生徒が自らを正しく理解し、自分の進路について深く考え、将来の展望に立った進路選択ができるように次のような取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導体制が整備され、組織的な進路指導を行う。 ・発達段階に応じ、各学年に適した進路指導計画を立て系統的・継続的に進路学習を実施する。 ・望ましい職業観・勤労観を育成するため、ワークショップ等、系統的な指導を行う。 ・進路情報を収集し、生徒や保護者に適切な情報を提供する。 ・進路指導に関して、家庭・地域・関係諸機関との連携を図る。 <p style="text-align: right;">(キャリア教育の充実)</p> | |
| <p>指標 生徒アンケート「自分の将来の夢がある」の項目を65%以上にする。</p> | |

| | |
|--|----------|
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | B |
| <ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケート「自分の将来の夢がある」の項目は68.5%であった。 ・3年生教員中心に進路指導委員会を構成し、組織的な進路指導を行っている。また、今季前半から2学期にかけて、積極的に高等学校等の説明会に参加し、進路情報の収集、及び情報提供を行うことができた。 ・3年生では高等学校の出前授業とマナー講座を実施し、2年生では自己理解と仕事調べや進路ガイダンス講話、1年生ではキッザニア甲子園への校外学習などの取り組みを通して、将来の展望に立った進路選択ができるよう取り組んだ。 | |
| 次年度への改善点 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・望ましい将来展望（職業観・労働観等）の醸成を含め、適切な進路情報の提供を行いながら、進路指導の充実に努めていく必要がある。 ・とりわけ、多様な進路希望（通信制等）について、検討を進めていく必要がある。 | |

(様式2)

大阪市立友渕中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

| | |
|---------------------|------------------------|
| 評価基準 A：目標を上回って達成した | B：目標どおりに達成した |
| C：取り組んだが目標を達成できなかった | D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標 | 達成状況 |
|--|----------|
| <p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○生徒が積極的に参加する授業を創造するとともに、体験的な活動を積極的に実施し、自ら学ぶ生徒を育成するよう努める。年度末の校内調査で「前向きに授業に取り組んでいる」生徒の割合91%以上を維持する。(昨年度90.8%)</p> <p>●年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を47%以上にする。(昨年度46.9%)</p> <p>●年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を68%以上にする。(昨年度67.5%)</p> | B |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|--|------|
| <p>取組内容①-1【基本的な方向④、誰一人取り残さない学力の向上】国語科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み書きの基礎学力を向上させるため、漢字を含め言葉の学習を徹底する。 ・読書の幅が広がるように興味づけをする。 ・発表や創作活動、文章表現を通じて、意欲的に学び、表現する態度を育成する。 (言語活動の充実・「主体的・対話的で深い学び」の推進) | |
| <p>指標 学習意欲と理解度を現在の水準よりも高める。 (アンケート、各種テスト、提出物、作品、実技、授業態度による検証する)</p> | |

| | |
|--|---|
| <p style="text-align: center;">年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・漢字テストや文法テストなどの小テストの定期的な実施、辞書を用いた意味調べなど、日々基礎学力の定着を図った。 ・クラスや学年でのビブリオバトルや「絵の本ひろば」の実施など、読書活動につながる取り組みを行い、興味づけを図った。 ・積極的に「話す」「聞く」「書く」活動を取り入れたことで、学校生活アンケートの「学習に前向きに取り組んでいる」の項目において、肯定的な回答をする生徒の割合が 92.9%となった。 | B |
| <p style="text-align: center;">次年度への改善点</p> | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・朝読書を含む読書活動の取り組みが、学年や国語科内でもまちまちである。教科として、どこまで読書活動につながる取り組みを行うのか、一定のラインを決める必要がある。 | |
| <p>取組内容①－2【基本的な方向④、誰一人取り残さない学力の向上】社会科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力の定着のため、プリントやワークブックなどで学習内容を振り返る。 ・日常的に現行の学習内容と時事問題を関連づけさせ、社会的事項に関する興味・関心を育む。 <p style="text-align: right;">（「主体的・対話的で深い学び」の推進）</p> | |
| <p>指標 学習意欲と理解度を現在の水準より高める。</p> <p style="text-align: center;">（アンケート、各種テスト、提出物、授業態度等により検証する）</p> | |
| <p style="text-align: center;">年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとに重要語句の一問一答問題を作成し、学習内容の振り返りや学力の定着に努めた。 ・PowerPoint などを用いて、動画（ニュースや NHK for school など）や画像を視覚的に見せ、社会的事項に関する興味・関心を持たせた。 ・単元の導入やまとめ時にグループワークや学習系ゲームなどを活用し、学習への興味を引き出すことで、生徒アンケートで授業に前向きに取り組んでいると答えた者が 88.8%に及んだ。 | B |
| <p style="text-align: center;">次年度への改善点</p> | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・更に理解しやすくするための画像の加工（PowerPoint のプレゼンテーションなど）や動画の精選に努め、来年度も今年度同様のアンケート結果が得られるようにしたい。 ・学習系ゲーム中や動画（NHK for school など）の視聴中に、音声途切れたり画面がフリーズすることがあるので、ネット環境の改善が求められる。 | |
| <p>取組内容①－3【基本的な方向④、誰一人取り残さない学力の向上】数学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。 ・課題的な学習を通し、主体的に学ぶ態度や、問題解決能力の育成を図る。 <p style="text-align: right;">（理数教育の充実・「主体的・対話的で深い学び」の推進）</p> | |
| <p>指標 学習意欲と理解度を現在の水準より高める。効果検証として各種アンケート、各種テスト、提出物、授業態度等を用いる。</p> | |

| | |
|--|---|
| <p style="text-align: center;">年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> | |
| <p>・学習意欲を高めるようなゲームやクイズなどを取り入れながら授業を進めることで、数学の楽しさを伝えることができた。また、小テストや補充学習プリント等で振り返りの時間を多く確保することができたので、学校生活アンケートの「授業内容は理解できる」項目において肯定的な回答が 85.9%で、ほとんどの生徒が基礎的・基本的な学習内容の定着ができた。</p> | B |
| <p style="text-align: center;">次年度への改善点</p> | |
| <p>・ICTについては、教師がパソコンを利用するだけでなく、生徒がタブレットを使ってデータを収集し、整理するような活動を行うことを多く取り入れていくことで、さらに主体的に学ぶ態度や、問題解決能力の育成を図っていきたい。</p> | |
| <p>取組内容①－4【基本的な方向④、誰一人取り残さない学力の向上】理科 ・ 演示実験や、実験の映像を用いた実験観察に代わる授業を、積極的に行う。 ・ 実験観察や実習の結果を通して、自然法則の基礎、基本の理解を図る。 (理数教育の充実・「主体的・対話的で深い学び」の推進)</p> | |
| <p>指標 学習意欲と理解度を、現在の水準より高める。 アンケート、各種テスト、提出物、作品、実技、授業態度等により検証する。</p> | |
| <p style="text-align: center;">年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> | |
| <p>・担当教員5人で2つの理科室を効率よく利用するため、年度当初は学習する項目の順序を変えるなどの工夫を行い、積極的に実験観察を行った。 ・小テストやテスト前の学習項目のまとめのプリントなどを用いて基礎・基本の理解を図った。 ・教科書が変わり、実験内容や器具の変更があった中でも早期に確認を行い現行の器具で工夫して実験観察をすすめていくことができた。</p> | B |
| <p style="text-align: center;">次年度への改善点</p> | |
| <p>・理科室にエアコンが整備されていないため、猛暑の期間の理科室の利用が積極的に行えないことが課題である。</p> | |
| <p>取組内容①－5【基本的な方向④、誰一人取り残さない学力の向上】音楽科 ・基礎、基本を定着させるよう、わかりやすい授業を心がける。 ・歌唱を中心に取り組み、表現する力や自主的に活動する力を養う。 ・鑑賞、歌唱、器楽の活動において、多種多様な音楽に親しみ、音楽を楽しむ心を養う。 (「主体的・対話的で深い学び」の推進)</p> | |
| <p>指標 学習意欲と理解度を現在よりも高める。 (各種テスト、提出物、実技、授業態度、自己評価により検証する)</p> | |

| | |
|--|---|
| <p style="text-align: center;">年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> | |
| <p>・パワーポイントやワークシートの作成し、基礎基本の定着を図ってきた。生徒たちは、歌唱、器楽、創作、鑑賞様々な活動において、基礎基本を生かし、積極的に取り組む姿勢と表現力が1年間で少しずつ培われてきた。また、グループ活動を多様に取り入れ、対話的な学びを主体とする授業により、生徒たちは、多くの発想を感じ得ることができた。</p> | B |
| <p style="text-align: center;">次年度への改善点</p> | |
| <p>・思考判断する力を身につけるために、多種多様な音楽の活動からどうアプローチすべきかを今後も研鑽していく。</p> | |
| <p>取組内容①－6【基本的な方向④、誰一人取り残さない学力の向上】美術科</p> <p>・3年間の表現や鑑賞の授業を通して造形的な視点で創意工夫をして表現できるように指導する。美術や美術文化に対する見方や感じ方を深め、美術の創造活動の喜びを味わわせ、美術を愛好する心情を育み、豊かな感性・情操を養う。提示されたキーワードや課題から自ら主題を生み出し、発想・構想を練って独創的な作品を工夫して自主的に制作できるように系統的な指導計画を立てる。</p> <p>・他教科や総合的な学習と連携を図り、教科横断的な学びを取り入れることにより深い学力が身に付くように授業を工夫する。</p> <p>・相互鑑賞やグループ学習を適宜実施し、お互いの違いや良さを認め、相互理解を深められるように指導する。</p> <p style="text-align: right;">（「主体的・対話的で深い学び」の推進）</p> | |
| <p>指標 生徒アンケートで美術の授業を通して成長したと感じた生徒の割合を85%以上にする。</p> | B |
| <p style="text-align: center;">年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> | |
| <p>・自ら主題を生み出し、自主的に制作が行えるよう課題の工夫を行い、学校評価アンケートの「美術の授業に前向きに取り組むことができた」の項目では85%以上肯定的な回答が得られた。また、家庭科との横断的な学びを取り入れることもでき、日常生活で美術がもたらす働きについて深く学ぶことが出来た。</p> <p>・鑑賞の授業では、相互鑑賞を行うことで、作者の意図や表現の工夫を考え、他者の考えや、違いを理解する良い機会となった。</p> | |
| <p style="text-align: center;">次年度への改善点</p> | |
| <p>・今後校内展示や発表の機会を増やすことで、学習の成果を振り返る活動を充実させる。</p> | |
| <p>取組内容①－7【基本的な方向⑤、健やかな体の育成】保健体育科</p> <p>・体育委員を中心に準備運動を行い、基礎体力の向上を図る。</p> <p>・運動を楽しむ態度や姿勢を養い、技術の向上、健康の保持・増進につなげる。</p> <p>・自己の役割を自覚して、その責任を果たし、互いに協力しながら授業に参加できる態度を育成する。</p> <p style="text-align: right;">（体力・運動能力向上のための取組の推進）</p> | |
| <p>指標 学習意欲と理解度を現在の水準より高める。 （アンケート、各種テスト、提出物、実技、授業態度により検証する）</p> | |

| | |
|--|---|
| <p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 体育委員に責任感を持たせることでリーダー育成にもつながり、メリハリのつく授業につながっている。 ・ 授業アンケートの結果では肯定的な回答が多くを占めているため、運動が苦手な生徒も楽しみながら様々なことを向上できている。 | B |
| <p>次年度への改善点</p> | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 様々なことに自ら選択させることで取り組んでいるが、集団行動や規律という観点でも自らの行動・選択を考えられるような取り組みを行っていきたい。 | |
| <p>取組内容①－8【基本的な方向④、誰一人取り残さない学力の向上】技術・家庭科 実践的・体験的な学習活動を通して、ものづくりやエネルギー利用およびコンピューターの活用、また衣食住に関する基礎的な知識と技術を習得するとともに、適切に活用し、課題を持って生活をより良くしようとする能力と態度を育成する。</p> <p style="text-align: right;">（「主体的・対話的で深い学び」の推進）</p> | |
| <p>指標 学習意欲と理解度を現在の水準より高める （アンケート、各種テスト、提出物、作品、実技、授業態度により検証する）</p> | |
| <p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 実習を通じて生徒が主体的に取り組めるよう、作業手順の視覚化（写真・動画の活用）やグループ活動を取り入れた。 ・ 保育実習や企業とのコラボレシピなど外部機関との連携した活動を行い、実社会とのつながりを意識した学びを提供した。 ・ アンケートの結果、「前向きに授業に取り組んでいる」と答えた生徒が95%を超えた。 | A |
| <p>次年度への改善点</p> | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ よりスムーズに実習を進めるため、作業手順の説明方法を改善する。 ・ 外部機関との連携をさらに充実させ、実践的な学びの機会を増やす。 ・ 安全管理の徹底と、限られた時間内の作業効率向上を図り、来年度も充実した実習を実施したい。 | |
| <p>取組内容①－9【基本的な方向④、誰一人取り残さない学力の向上】英語科 文法知識や語彙を身に着け、「読む・書く・聞く・話す」の4技能の習得に努める。</p> <p style="text-align: right;">（英語教育の強化・「主体的・対話的で深い学び」の推進）</p> | |
| <p>指標 コミュニケーションへの関心・意欲・態度を高める。表現、理解の能力を現在の水準より高める。（発音、アクセント、単語テスト、提出物、スピーチ、暗唱により検証）</p> | |

| | |
|--|---|
| <p style="text-align: center;">年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> | |
| <p>・単元など内容や時間のまとまりを通して、その中で育む資質、能力の育成に向けて、生徒の主体的、対話的な学びの実現を行った。具体的な課題を設定し、生徒がコミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、英語の音声や語彙、表現、文法の知識を実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図った。通年で TT を行い、教科書の暗唱テストと定期テストの再テストを行った。また C-net を活用し、speaking と writing の練習を行うことができた。</p> | B |
| <p style="text-align: center;">次年度への改善点</p> | |
| <p>・教科書の教材研究を丁寧に行うとともに、更なるタブレットを含む ICT 機器を上手く活用しながらすすめる新たな教科の指導改善をしていきたい。</p> | |
| <p>取組内容②【基本的な方向④、誰一人取り残さない学力の向上】 平均以下の得点の生徒や学習習慣が身についていない生徒に対して、学習支援をする。基礎学力を中心とした教材を利用して教科ごとに取り組む。平均点以下の得点の生徒に対しても、基礎固めの取組を通じて、確かな学力形成を図る。 （「主体的・対話的で深い学び」の推進）</p> | |
| <p>指標 学習意欲と理解度を現在の水準より高める。 （生徒アンケート、各種テスト、提出物、実技、授業態度により検証する。）</p> | |
| <p style="text-align: center;">年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> | |
| <p>・長期休業中やテスト前に元気アップ事業等も活用し、学習支援を行った。 ・1人1台端末を使用し、各教科等の中でどのように活用できるのかを共有し、有効活用している。 ・全国学力学習状況調査をはじめとした外部テスト等において、大阪府、全国の平均正答率を上回っている。 ・学校生活アンケート「先生は授業づくりの工夫に取り組み、授業改善に努めている」の項目において、肯定的回答が 94.6%となった。</p> | B |
| <p style="text-align: center;">次年度への改善点</p> | |
| <p>・1人1台端末の活用など、生徒一人一人の理解度に応じた個別学習や個に応じた指導を行うなど、これまで以上に ICT を効果的に活用した学習活動をし、生徒の学びを保障していく必要がある。</p> | |

| | |
|---|---|
| <p>取組内容③【基本的な方向⑤、健やかな体の育成】 生徒一人ひとりが、健康で安全な生活を送るための意識向上を図る。 (健康教育・食育の推進)</p> | B |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康の保持・増進を図るために「健康の記録」「ほけんだより」を発行する。 ・諸検査の意義を自覚させるとともに疾病治療を進め、治療率の向上を図る。 ・安全及び衛生美化指導に努める。 | |
| <p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事に関連したポスターの掲示、健康診断結果の再通知、定期的な保健だよりの発行を実施した。 ・受診勧告の再配布の結果、歯科、耳鼻咽喉科、眼科、視力と約半数の受診につながった。 | |
| <p>次年度への改善点</p> | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ほけんだよりを健康診断前後にも発行し、健康診断の実施理由や検査内容について周知し、自己管理能力の育成に努めていく。 ・受診勧告を長期休暇前に発行し、受診率の向上に努める。 | |
| <p>取組内容④【基本的な方向⑤、健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全安心で楽しい学校給食をめざして給食指導に取り組む。 ・生徒が望ましい食習慣を身につけることができるよう、食に関する指導の充実を図る。 ・感染症対策・アレルギー対応をしっかりと取り組む。 <p>(健康教育・食育の推進)</p> | B |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員対象にアレルギー対応研修を年1回以上実施する。 ・学校給食を生きた教材として活用し、食に関する指導の内容を充実させる。 ・「食育つうしん」を月1回発行する。 ・手洗いや配膳台の除菌などを徹底する。 ・個別対応献立表を活用し、保護者・担任等との連携を密にし、誤食等事故の発生を未然に防ぐ。 | |
| <p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに教職員に向けてアレルギー対応研修を実施した。アレルギー表示や注意喚起を喫食前だけでなく全校集会や学年集会でも行うことで、意識を高めることができた。また食物アレルギーの個別対応についても、在校生や新入生の保護者と連携を取りながら丁寧な対応ができた。 | |
| <p>次年度への改善点</p> | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・マスクや給食セットの管理など、安全安心な学校給食の実現のため、給食委員と連携し取り組んでいきたい。 | |

(様式2)

大阪市立友渕中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

| | |
|----------------------|-------------------------|
| 評価基準 A: 目標を上回って達成した | B: 目標どおりに達成した |
| C: 取り組んだが目標を達成できなかった | D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標 | 達成状況 |
|--|----------|
| <p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>学校の年度目標</p> <p>●授業日において、生徒の8割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。</p> <p>○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を67%以上にする。(昨年度 66.04%)</p> | B |

| 目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|---|----------|
| <p>取組内容①【基本的な方向⑧、生涯学習の支援】</p> <p>学校図書館および読書活動の活性化に向け、図書ボランティアと図書委員とで連携し、「青空図書館」や「絵の本ひろば」などの取り組みを実施する。また、学級文庫や蔵書の充実を図り、生徒が理想とする図書館の実現をめざす。</p> <p style="text-align: right;">(学校図書館の活性化)</p> | B |
| <p>指標 図書委員会の開催ごとに協議・検討しながら、取り組みを実施する。</p> | |
| <p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> <p>・昼は図書委員、放課後は図書ボランティアが、ほぼ毎日開館業務にあたり1年間安定して開館できた。</p> <p>・「青空図書館」を3回開催し、計287人の利用と76冊の貸出があり、多くの生徒の利用、貸出が見られた。年度末には四回目を実施予定である。また2月上旬に全学年対象に「絵の本ひろば」を開催し、図書室を有効に活用できた。</p> <p>・学級文庫や蔵書の整理を適宜行い、本を手に取りやすい環境を整えた。</p> | |
| <p>次年度への改善点</p> <p>・授業で図書室を利用するにも「ほっとスペース」との連携が必要なため、気軽に活用できないことが課題であり、依然改善されないことも課題である。また、読書活動においても、学年によって記録記入の時間確保が難しいため、学年の国語科と連携を取りながら、読書活動を推進していく必要がある。</p> | |
| <p>取組内容②【基本的な方向⑦、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>本校の実情に合わせた授業研究を行う。</p> <p>・授業公開週間を設けて、互いの授業を参観し授業力の向上に努めていく。</p> <p>・年間2回の研究授業を行い、研究協議を行う。</p> <p>・より見やすい指導案を作成し、指導法をお互いに学びあうための資料とする。</p> <p style="text-align: right;">(教員の資質向上・人材の確保)</p> | |

| | |
|---|----------|
| <p>指標 お互いの授業を参観し、授業法を研究することで授業の改善を図る。</p> | |
| <p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> | |
| <p>・研究授業を実施するために、学習指導案を作成し、研究授業を実施することができた。研究授業に向けて、各自が指導法を考え、授業の質向上を目指した。授業見学、研究協議を通して、授業改善を図った。</p> | B |
| <p>次年度への改善点</p> | |
| <p>・一部、研究授業を行うことができなかった職員がいた。また時間割上、同じ教科内でも授業を見学できないなど問題点もあった。授業者も見学者も困らないよう、時間割等配慮できればよいと考える。</p> | |
| <p>取組内容③【基本的な方向⑨、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 「一小一中」の利点を活かし、小中間で連携し、相互の情報の共有や児童・生徒の現状などを把握しあうため小中交流事業を設ける。 (教員の資質向上・人材の確保)</p> | |
| <p>指標 これまでに実施した小中連携行事の内容を充実させ、体験授業やクラブ見学に参加した児童の満足度アンケートで判断する。</p> | |
| <p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> | |
| <p>・6月に小中連絡会を実施し、旧6年生職員との連絡会を実施し、情報共有を行った。11月には6年生を対象に中学校体験授業を行い、「来年の入学に向けてよい経験になったか」という質問項目に対して、6年生児童220名中193名(88.7%)がとてもよい経験に、27名(12.3%)がよい経験になったと回答し、肯定的回答が100%となった。</p> | B |
| <p>次年度への改善点</p> | |
| <p>・担当者中心に行事予定等の日程調整を行ったが、6月の連携会議での中学校での授業参観を行う日程調整が難しかった。今後はスムーズに活動を継続していけるよう、工夫していく必要がある。</p> | |

大阪市立友渕中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

| | | |
|------|----------------------|-------------------------|
| 評価基準 | A: 目標を上回って達成した | B: 目標どおりに達成した |
| | C: 取り組んだが目標を達成できなかった | D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標 | 達成状況 |
|--|----------|
| <p>【その他】</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○授業や行事、生徒会活動や部活動において生徒同士の話し合いで考えを深め、発表内容を決める経験を増やしてきている。日常の教育活動において、一層「主体的・対話的で深い学び」を増やして探究的に物事を考えていく活動を一層取り入れている。</p> <p>●豊かな感性を育てるために、朝読書を通じて読書活動をより一層活発にし、学校生活アンケートで「読書は好きだ」と答える生徒の割合を65%以上にする。 (昨年度 64.8%)</p> | B |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|--|----------|
| <p>取組内容①【その他】</p> <p>一人一人に自覚と責任を持たせ、主体性のある生徒集団を目指す。</p> <p>(1) 挨拶・時間を守る・服装など基本的な生活習慣の確実な定着を図る。</p> <p>(2) 集団の様子や教育相談などを通じて、生徒の状況を把握することに努める。</p> <p>(3) 生徒会活動、各行事の充実を図り、生徒の自主性を図る。</p> <p>(4) 問題行動が発生したとき、組織的に対応できる体制を整える。</p> <p>(5) カウンセリングマインドを取り入れた生活指導をする。</p> | B |
| <p>指標 生徒アンケートの該当する質問で判断する。</p> | |
| <p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> <p>・風紀委員会主体となり、生徒全員が服装のセルフチェックを行った。</p> <p>・教育相談活動を行うことができた。また、心の天気も程度の差はあれ全学年実施することができた。</p> <p>・生徒議会での話し合いを通じて、校則について主体的に考えさせることができた。来年度以降も見直しの必要があるので引き続き生徒主体で進めていきたい。</p> <p>・ケース会議やいじめ・不登校対策委員会を実施し、教員間で情報の共有を図った。また、関係諸機関と連携した。</p> <p>・TEAMSを利用した情報共有をし、活用し、複数教員が対応できる基盤を作ることができた。</p> | |

| 次年度への改善点 | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none">・次年度も生徒一人一人に自覚と責任を持たせ、主体性のある生徒集団を目指していく。そのために校則の見直し活動など生徒主体で行っていく。また、心の天気を用いて日々の教育相談を充実させるとともに、生徒自身も自分のことを客観視できる力を育んでいきたい。そして生活指導部として研修会を実施することで日々の生活指導につなげていきたい。 | |